

## 平成 20 年度 第 1 回意見交換会報告

日時： 平成 20 年 8 月 23 日（土） 14:00 ～ 17:00

場所： ハピネス四谷（健康保険組合連合会東京連合会）

出席者（敬称略順不同）： 藤田泰之（びわこ学園）山口靖（荏原実業）相部紀夫（永光） 五十嵐英則

久保田はる子（九宝物産）岩橋尊嗣（新エポリオン）鈴木真希（新東工業）祐川英基（三菱マテリアル）清水洋一

平林憲次 高橋通正（神奈川県）小坂芳男（環境管理センタ）金子健（東京デオドラント）中後晶久（荏原実業）

伊藤英武 生田博美（東洋興商）中野肇（新明和）小松繁 小松崎徳彦（日本ライフケア）高山洋一（近江オドエア）

武居寛雄（メーユー舎）吉栄康城（新コスモス電機）武山幸生（メーユー舎）大林真人（北炭化成）長内悦子

山本明和（栗田工業）佐藤博（長崎国際大学）速水幹雄（速水）片山泰人（荏原実業）阿部享一（釧路技研）

樋口能士（立命館大学）近藤幸美（三協エアテック）久保田豊秋（九宝物産）前田康博（新菱冷熱）

高嶋文人（忍足研究所）小笠原利江（メーユー舎）松本雄成（東洋興商） 以上参加者 37 名（会員 30 名非会員 7 名）

### 1. 講演報告

演題 「医療・福祉施設における、におい対策とかおりの活用」

講師 藤田泰之殿（びわこ学園医療福祉センター草津 医師） 日本重症心身障害学会会員、

小児神経専門医、日本アロマセラピー学会認定医師、日本感染症学会推薦認定 ICD、日本医師会認定産業医

びわこ学園は日本で 2 番目に開設された重症心身障害児施設（医療機能を備えた生活福祉施設）である。今回の講演では、悪臭対策と芳香活用について、医療の立場から、障害をもつ利用者の健康維持と感染予防・豊かな生活をめざして取り組んできた内容を紹介した。

重症心身障害児者のおい対策への対応に関しては、評価方法の検討がまだ十分ではなく、今後の課題である。必須微量元素（亜鉛）の欠乏で味覚・嗅覚への障害影響が生じることもあり、栄養管理には特に注意している。健康管理では、におい（口臭、尿臭、膿臭など）を重要な観察項目とし、感染症などの指標、疾病の早期発見に役立っている。口腔衛生の改善は、誤嚥による肺炎の発病を予防する点からも重要でありまた居室の悪臭もかなり軽減した。また、かおりを用いた活動についてさまざまな場面で取り込んでいる。その主たるものはアロマセラピーであり、リハビリテーションの初めにアロマの足浴で緊張をほぐすことなど、実施容易な方法で比較的安全とされる精油を使って実施している。光や音、香りの中でリラックスするスヌーズレン活動も行なっている。

利用者への香りの効用（効果）については、職員による主観的評価として、表情や筋緊張緩和の様子などが、また客観的評価としては呼吸・心拍・血圧の変動をみている。外来利用者としては、重症心身障害児者だけでなく、てんかん、神経難治疾患、軽度精神遅滞、自閉症などさまざまである。慣れない場所なのでなかなか部屋などに入れない方も多く、他の病院では無理だったが、びわこ学園では自然に診療室に入れた、という話を耳にすることがある。職員の対応方法や視覚的要素（病院らしい雰囲気があまり感じられない）、あるいは臭気環境などが影響しているかもしれない。

### 2. 意見交換会

樋口能士先生（立命館大学）より、現時点で一般に用いられている簡易測定法の現状について解説していただいた。問題点も提起していただき、意見交換を行なった。特に各種器材への着臭の問題とその解決策について議論された。